

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム たのはた虹の家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000710&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ安心して生活できる環境にある。 ・海の幸、山の幸に恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、同法人が運営する生活支援ハウスとデイサービスセンターなどと同一の建物内に併設されている。また敷地内には特養、診療所、保健センターがあり、さらに役場も近くにある事から地域における保健・医療・福祉の拠点となっている。利用者の生まれ育った地や、思い出の地を大事にするという方針のもと、家族の協力を得ながら故郷訪問の機会をつくり、本人の意向に沿う対応に努め馴染みの関係の継続に努めている。このほか山菜取りや畑仕事といった活動やホームの各種行事等を通してのみならず、日頃から笑顔で支え見守りながら、利用者にとって「ぬくもりと安らぎの場」となるよう職員は取り組んでいることが窺われた。なお、災害対策は法人の防災計画により毎月実施し、年4回は他施設と同日で実施し安全対策に最善のもとで取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム たのはた虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目に付くところに掲示し、それをもとに支援している。	独自の理念「温もりとやすらぎのある場を提供する」をつくりあげ、職員が確認できるよう事務室や厨房の壁に掲示し、また新採用職員には管理者等が説明し、全職員が理念を共有してその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事への参加・見学をさせていただいている。 ・日常の交流としては、日々の食材の買い物に出掛け、店員さんと顔見知りになっている。 ・独自の広報を発行し、身近に感じられるよう情報を発信している。	自治会には加入していないが、盆踊りなど行事への招待があり見学に出かけているほか、地区小学校や児童館、障害者施設などと行事案内を互いに出し合い、交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の活動はないが、地域の方々から相談を受けた際には、地域貢献できるような体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや状況報告をしている。前回の外部評価の結果報告をし話し合いをした。	3ヶ月に1回開催し、利用状況や行事の内容を中心に話題としているが、外部評価結果や、看取りの取り組みの方針とそのため体制の在り方を話し合うなどホーム運営の課題を取り上げ質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実情や取り組みは、運営推進会議で伝えている。回数としては多くないが、いつでも気軽に相談・協力依頼できる関係にある。	運営推進会議や広報配布の際を活用して情報交換を行なっているほか、電話等で気軽に相談し合える関係にあり、入居申し込みや職員の人員配置など、事業運営に関する様々な事項を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月に内部研修を行い、身体拘束に対する職員の共有意識が図られている。玄関にはセンサーコールを設置し安全且つ拘束しないケアに努めている。	4月頃まではホーム前の道路が急な坂道のため冬季間の凍結時の危険防止を考え、時々施錠していた時もあったとしている。現在は研修等を通じて身体拘束廃止の意識向上に取り組んでいる。なお、見守りの一つの方法としてセンサーを玄関に設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間予定に内部研修を取り入れ意識づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が宮古圏域の権利擁護委員であり、必要時に相談に乗っていただける体制がある。年間予定に内部研修を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学をしていただいている。双方で思い違いのないよう心がけ説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見・苦情窓口を設置している。 ・利用者の訴えにも耳を傾け、会議等で話し合うようにしている。	散歩やドライブ、面会や通院など様々な機会を捉え、何気ない話し合いから意見等を聞くよう努め、その結果を活動メモやケース記録に記載し、毎月開催する職員の全体会議で検討して運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月開催する職員の全体会議で運営面で気づいた点を出して貰い、例えば、散歩中のふらつき防止のためシルバーカーの使用などの提案があり、検討し支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・定例会ブロック研修に参加することで交流の機会が得られている。 ・11月に交換研修(相互訪問)を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや見学にいらした際に傾聴し信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学にいらした際に傾聴し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点で、殆どの方が既にサービスを受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・限られた利用者ではあるが、一緒に草取り・畑作業・家事を行っている。 ・昔の風習・暮らしの知恵などを訊き支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族通信や面会時に近況報告や相談をし、共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問やドライブに出掛けている。村外の故郷訪問は5月・9月に行っている。	家族の協力を得て自宅や思い出の場所を訪れているほか、馴染みの理美容を利用するなど、一人ひとりの生活習慣を尊重している。また近所の人の来訪や買い物時の出会いなど、継続的な交流ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、中立な立場で支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、他事業所等でフォローが十分な体制にあり場面はなかった。今後、必要な場面があれば相談や支援に努める体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話から感じとり情報共有している。 ・アンケートを実施している。	利用者から聞いた意向等は活動メモやケースに記録し皆で共有している。また、ホームでは、新たな試みとして食事や入浴に関する利用者の感想、意向などを、職員が聞き取るアンケートを実施し利用者の意見等を活かすこととしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行う他、面会時に情報をいただくことがある。また、日々の会話から情報を得ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画に沿った記録を含め、なるべく細かいことまで記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、月ごとにケース記録のまとめとカンファレンスを行い、現状の確認と共に意見を出し合い計画継続・変更をしている。	活動メモやケア記録を参考にするほか、また毎月のカンファレンスで職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。なお、計画の見直しは定期的に行うほか、心身等の状況に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かいことまで記録に残し、重要な事は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンスで話し合い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・買い物・通院・美容院への付き添いを行っている。 ・故郷訪問などで思い出の場所に行く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・併設施設で行われる慰問の見学をしている。 ・なじみの方を招いての行事を行い支援している。 ・消防立会での消防訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康診断・定期通院などで状態を把握していただき、ご本人が希望を伝えやすい環境にある。	医療受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医で、家族の付き添いを原則としているが、近くにある診療所への通院は職員が同行受診している。また家族が通院に付き添いできない場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換に努め対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針・ケアマニュアルを作成し体制作りをはじめている。	ケアマニュアルや、看取指針を作成した段階であることから、今後は、医療との連携や、看護師の配置など体制整備などを図り期待に応えるようにしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画に挙げ実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域防災協力者の体制がある。 ・避難訓練をしている。	防災計画に基づき様々な場面を想定した毎月訓練を実施し、その内4回は法人合同で、また2回は地域防災協力者参加のもとで、消防器具や車椅子の誘導を説明するなど協力体制が築かれている。	地域協力体制が築かれており、今後は協力者が訓練に参加して体験することも大切と思われるので、運営推進会議などを活用し検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報記録されている書類は利用者から見えないところに置いている。 ・呼んで欲しい呼び方で呼ぶ、視線を合わせて話すようにしている。 ・トイレ誘導の声掛けや便の確認など他者に聞こえないように配慮している。	トイレ誘導への声かけ際は、周りに注意したり、失禁などの場合は「部屋で休みましょう」とそっと声かけ誘導したり、また、入浴や着脱・着衣などの介助でも誇りやプライバシーを損ねないよう対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が希望を表わしやすいような会話をこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添うよう努めてはいるが、業務都合に合わせていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時は外出用の服・帽子・スカーフなど準備している。 ・理容・美容院に付き添っている。 ・保湿クリームなど購入し入浴後につけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食メニューの希望を聞いている。 ・下ごしらえ・片づけも一緒に行っている。 ・職員も同じテーブルで食事をしている。	誕生会には希望する食べ物とした楽しい食事会したり、食欲が進まない時には「地元で採れたものだよ」等と話す美味しそうに食べたりするほか、食事は職員と一緒にいき、テレビや行事等の話題を提供し楽しく食事できるよう雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・体調や状態を考慮し、お粥・刻みで提供・塩分を控えめ・水分量のチェックなどしている。 ・栄養士に献立のチェックをお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・夕食後に歯磨き・入歯洗浄の声掛けをし磨き残し等に対するケアをしている。 ・義歯は毎日、洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排便状況を個々にチェックし、水分摂取・服薬・散歩の支援を行っている。 ・排尿支援が必要な方は様子を見て誘導している。 	一人ひとりの排泄チェックを丁寧に行い、その人の習慣やパターンに応じた支援をした結果、オムツを利用している人は少なくなっている。特に就寝前の声がけに配慮し、安心して就寝できる支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便状況を個々にチェックし、水分摂取・服薬・散歩の支援を行っている。 ・ご本人の希望であるヨーグルトの買い物支援をしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてもという時間の希望はないため毎日午後入浴を提供している。 ・利用者に順番を決めていただくなどしている。 ・湯船に入る又はシャワー、好きな方を選んでいる。 	入浴は毎日午後の時間帯とし全員が入浴している。ホームでは利用者同士で順番を決めての入浴が習慣化している。入浴ではその日の出来事などを利用者同士で話題にし楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼寝を自由にしている。 ・朝、もう少し寝ていたいという希望があれば希望通りとしている。 ・保冷剤や湯たんぽを貸し出し安眠の支援をしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬手帳・個人基本台帳ですぐに確認できるようにしている。 ・変更時に申し送りをしている。 ・服薬確認している。 ・症状の変化があった場合は医師に相談している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理・畑作業・山菜取り・草取り・裁縫など一人一人の力を発揮できる場があり役割を持って生活している。 ・ドライブ・買い物・外食の支援をしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩・近隣への買い物・ドライブの支援をしている。 ・家族対応での外出をお願いすることがある。 ・希望を聞き、少し遠い場所へも故郷訪問として出掛ける機会を設けている。 	日常は周辺の散歩や買い物に出かけるほか、他施設と建物がつながっていることから建物内を自由に散歩している。季節によって花見や山菜取り、紅葉狩りなどに出かけたりするほか、道の駅へドライブをしたり、家族の協力を得て故郷訪問に出掛けたり積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が難しい方が殆どで基本的にはGHで管理とさせていただいているが必要時にいつでも使える状態にある。 ・ご本人・ご家族の希望で本人持ちの利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・宅配便が届いた時に、電話している。 ・家族が恋しくなった様子がみられた時に電話し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花を生け季節感を採り入れている。 ・換気・湿度や温度調整、又はカーテン・芳香剤を使用するなど配慮している。	ホール兼食堂には、テーブルや長椅子を配置し鉢花を飾り、小上がりの畳敷きにはテレビが備え付けられている。壁にはパズルの絵や写真を飾り楽しく過ごせるよう環境づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う同士で居室を行き来し談笑していることもある。 ・にぎやかなところが好きなようで自然と居間に集まってくる人が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビ・ベット・ソファを持って来ている方もいる。 ・鉢やぬいぐるみを置いたり、写真を壁に飾っている方もいる。	居室は、暖房が整備され暖かい部屋となっており、部屋にはテレビや小物入れ、写真などそれぞれ馴染みの物が持ち込まれている。なお、配置や飾りつけは職員と一緒にしない、居心地よく暮せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・「トイレ」などの場所の表示がある。 ・必要に応じ、滑り止めの使用や履物の工夫をしている。		